



拓 (ひらく)

関西合同労働組合 教 宣 部

〒653-0021

神戸市長田区梅ヶ香町2-5-2

電話 078-652-8847

第139号 2025・2・28

HP : kangodounion.org

Email : hyogounion@k8.dion.ne.jp

25春闘スタート、旗開き・春闘討論集会を開催



1月26日、西宮市内で関西合同労働組合2025年新年旗開き・春闘討論集会を開いた。

最初に、組合員の昨年10月28日に心筋梗塞で亡くなった小倉崇男さん（享年69歳）の死を悼んで黙祷をおこなった。

佐々木委員長のあいさつ「『官製春闘』から賃上げの主導権を労働組合が取り戻す」

「物価の高騰、賃金が上がらない中、25春闘で私たちの真価が問われている。関西合同労組は、10%・2万円の賃上げを要求して闘う」「連帯労組関生支部への労働組合つぶしの弾圧を許さない闘いに取り組もう」

「石破首相は『楽しい日本』にするために賃上げが必要、と言ったが、600兆円を超える企業の内部留保には手を付けようとしていない。闘って生活の改善を勝ち取ろう」とあいさつ。

25春闘方針提起

石田副委員長は、藤崎麻里著『なぜ今、

労働組合なのか』ブラック企業被害対策弁護団著『ブラック企業戦記』の二冊の本を紹介し「労働運動は実践と学びの繰り返し、どんな小さな職場改善をも、粘り強く、先輩たちの経験から学び実現して行こう」

「今、斎藤兵庫県知事の問題、『公益通報者保護法』は労働者にとって重要な法律であり企業や行政組織の不正、脱法を許さない闘いであり注目しよう」と述べた。

次に佐々木委員長から「25春闘を闘うにあたって」が提起された。「①第50回衆院選について、与党過半数割れのチャンスに軍拡・戦争への道を断とう」「②パレスチナ、ウクライナ情勢と反戦の取り組みについて、市民団体、学生団体とも連帯して即時停戦を訴えよう」「③物価高騰に対して、要求目安2万円もしくは10%の賃上げを対置して闘おう」「④最低賃金について、徳島県の例を参考に、地方最低賃金審議会に『今すぐ1500円』を働きかけよう」など7点が提起された。

続いて25春闘の方針を蒲牟田書記長が提起した。とりわけ、2月10日に予定されている「春闘要求行動」は10時半よりJR尼崎駅前での街頭宣伝、摂津分会の要求書提出、兵庫労働局への申し入れが取り組まれる。この行動への組合員の参加を要



請、春闘スローガンも提起された。

コミュニティユニオン全国総会分科会報告

次に、昨年10月5～6日にコミュニティユニオンの全国総会があり、その分科会報告があった。

第5分科会「最低賃金を引き上げよう」では、私たちの賃金のベースになるもので全国の仲間が共闘していくことが大切。と石田副委員長が報告。

第一分科会「ハラスメント問題にどう向き合うのか」では、相談にきた労働者に寄り添って、最もいい解決をめざすことが重要。経験を積んでいこう。と佐々木委員長が提起した。

第11分科会「関西生コン弾圧事件」では、宮崎執行委員が、2018年以来の関生弾圧では3件11名が無罪になっている（日本の刑事事件有罪率は99.9%！）。2月26日京都地裁で10時から湯川委員長に対する判決（求刑懲役10年）と4月17日大阪高裁・14時30分から加茂生コン事件（保育所への就労証明書を求めたことが強要とされた事件）の差し戻し審判決がある、傍聴にかけつけようと呼びかけた。

第3分科会「組織化を考える」では、サポート組合員のIさんが、共に働く仲間に対して「問題意識を持ってもらうこと」「相手の話を聞く、相手の話に熱心に寄り添う」「楽しくやる」ことが重要。そして今、労働組合の大切さが見直されている。と報告した。



ビデオ『女性がいなくなる』上映

休憩を挟んで「ドキュメント～女性がいなくなる～男女平等の国アイスランド」の上映が行われた。当時無権利で男性との賃金格差も大きかったアイスランドの女性たちが丸一日の休日闘争に立ちあがり、女性がいなく

なるとどんなことになるかを見せつけ、以後、女性パイロットや女性大統領などが次々に誕生した痛快で感動的なビデオが上映された。（「是非観たい」と言う方は組合に連絡ください）

職場報告と討論

職場報告として、摂津分会から、今春闘の取り組みとして大幅賃上げと共に増員要求、掲示板設置と同じ敷地内の職場で他のユニオンとの共闘が実現したことが報告された。（HP参照）

A職場、些細なミスで1年間にわたってパワハラを受け、体調を崩し入院しました。関西合同労組に相談し、組合加入して闘うことを選択、会社上司の謝罪、復職を勝ち取ることができ組合の大切さを改めて実感した。

B職場、運輸職場で、荷主に運賃に高速道路の通行料金を上乗せして支払うことを認めさせ、賃金に反映させる事ができた、勝利の報告があった。

C職場から、70歳までの雇用延長を求めチラシ配布し、仲間から共感を得、労働相談があったことが報告された。

D職場から、在日韓国人ですが差別、イジメに負けずがんばっていくことと仲間が大切。

E職場からは、私は介護職場で働いているが事業所の閉鎖があり負担が増えている。未払い賃金を支給させることが課題。等々が出され組合員、サポート組合員間の交流・意見交換が行われた。

最後に米村執行委員の「団結ガンバロウ」で25春闘を闘うことを確認した。



3



要求提出の後、関西合同労働組合佐々木委員長、武庫川ユニオン塚原書記長がそれぞれ職場で働いている仲間達に向けアピールと参加した全員でシュプレヒコールを上げ、(株)摂津、(株)摂津清運社前行動を終えました。



③兵庫労働局に要求書提出

JR尼崎駅に徒歩で戻り、昼食の後、兵庫労働局に電車で移動。15時前に到着し、対応に出てきた雇用環境・均等部企画課課長

に対して、①最低賃金を今すぐ1500円に（都道府県労働局長には、各地方最低賃金審議会に対し、最低賃金の調査、審議を求める権限があります）。②同一労働同一賃金、労働契約法の規定に基づき非正規雇用労働者への差別待遇を是正する要求。③パワハラ問題について、改正労働施策総合推進法の施行により、パワハラ問題の解決を企業任せにしないよう要求。④労働基準監督官の人員増員要求。⑤労働時間規制緩和について、日本経団連「労使自治を軸とした労働法制に関する提言」で出されている、「一日八時間」の労働時間規制を撤廃する提言に関する要求。を記載した要求書を読み上げて提出しました。



最後に、この日の行動を総括し、兵庫労働局に向かってシュプレヒコール「関西合同労組は25春闘を闘うぞ！」「最低賃金を今すぐ1500円に！」「同一労働同一賃金を勝ち取るぞ！」を上げて、一日の行動を終えました。



Aクリニックパワハラとの闘いに勝利解決

Aクリニックで一昨年の2023年7月から1年余り職場で執拗なパワハラを受けていたBさんは、組合に加入し5回にわたる粘り強い団体交渉の結果、パワハラをおこなった上司に直筆の謝罪文を書かせ、Bさんは3月から復職するところまでこぎつけてきました。

パワハラをしてきた上司は、Bさんに対してだけ差別的に、わずかなミスに対しても1時間以上大声で叱責したり、始末書を書かせ、仕事を教えないなどの差別的パワハラをしてきたのです。出勤しても上司から常に監視され、いつ叱責されるかという不安とストレスで下痢症状を発症し、眠れなくなり、一睡もしないで出勤する日もたびたびありました。

組合に加入し復職を勝ち取る

この先どうしていいのかわからないという絶望感でいっぱいだったBさんは、知合いの紹介で関西合同労組に加入しました。病院の言いなりになり、泣き寝入りだと思っていたBさんは、「それはパワハラです」

「闘いましょう」と言ってくれた組合の言葉に一筋の光

が見えたようだったと振りかえっています。

Bさんは、「この私が闘うの？大丈夫？そんな事を避けてきた私でしたが、5回の団体交渉をおこない、ついにパワハラをしてきた上司を異動させ、直筆での謝罪文を書かせ、ついに復職するところまで到達しました」と組合の旗びらきで語りました。



組合に入って思うこと

「私は復職できて本当によかったと心から思います。組合に入って思うことは、パワハラを受けて苦しんでいる人、泣き寝入りしている人が沢山いると思います。ですので、こういう組合がほんとうに必要なだと思います。私のように苦しんでいる人たちを少しでもたくさん助けていきたい、そう思うのです。私たちは『旗振り』と言っていました、実力行使の威力が病院と上司を追い詰めていったと確信しています。パワハラのない、働きやすい職場をみんなで作っていききたいと思います」

復職してからが大切

Bさんはいきなりフル稼働するのではなく、精神科の主治医の了解の下、自分の適応障害という病状と向き合い、午前中出勤したら午後と翌日は休むという形で慎重に3か月かけてフル稼働できるようにもっていく復職計画を立てています。Bさんをあ

たたかく迎える職場環境こそBさんを癒してくれる最大のものです。こういう共同性にふまえた信頼関係を一步一步つく



りだしていく希望をもってBさんは今、復職しようとしています。全力でBさんの復職を応援していきましょう。

大阪支部から新年の挨拶 大豊運輸倉庫分会

2025年は本当の意味で激動の1年になると思いますが激動の波に押し潰される事無く1年乗り切っていきたいと思ひます。



細見鉄工所分会

組合員、サポート組合員の皆さま。

新たな年を迎え、25春闘要求の実現にむけてともにたたかって行きたいと思っています。

今年もよろしくお
願います。



元執行委員の小林さんから

関西合同労組の皆さん 御奮闘ご苦勞様です。唐突ではありますが、気にしていることを書きます。

労組のないパート職の労働者は喘いでいるように見えます。不満を感じながらも堪えて頑張っています。但し、この先の展望や指針があるようには見えません。これが全国の非正規の姿だろうと思います。彼らに向かって、組合に入らないあんたが悪い、とは言えない、彼らの事情や心の内実が横たわっているような気がしています。階級はいなくても労働者はいるのです。私は肌身でつねに感じています。



(小林きよし 長崎県在住)

おおさかユニオンネットワーク 韓国オプティカルハイテック闘争 韓国オプティカルハイテック闘争とは？

日東電工が100%出資して設立した韓国オプティカルハイテックは2022年10月に発生

した工場火災を理由に廃業を決定し、そこで働く労働者をすべて解雇した。現在7名の組合員が、平澤にある韓国オプティカルへの雇用継承を要求して闘っている。また、工場の屋上で2名の組合員が高空籠城しており、2025年2月10日には籠城闘争400日をむかえる。(韓国オプティカルハイテック労組を支援する会のFacebookより転載)



上の写真は、韓国オプティカルハイテック労組を支援する会のFacebookより転載させて頂きました

大阪府労働委員会闘争へ

大阪府労働委員会で不当労働行為救済の調査開始。

1月31日当日。おおさかユニオンネットワーク各労組、現地労組当該が(日本労組 オプティカルハイテック労組として4名)参加。

今後三月、五月と調査。審問の開始へと入ります。日韓労働者が連帯して日本の大企業＝日東電工(本社大阪)と労働委員会闘争を闘う、初めての闘いとなります。

当該はこの大阪での闘いとともに東京での国会、外務省交渉など数カ月の遠征闘争で来日している。大阪本社行動、茨木工場闘争、(プロサッカーリーグの)J1開幕戦大阪ダービー(ガンバ大阪とセレッソ大阪が対戦する試合のこと、パナソニックスタジアム吹田で2月14日に行われた)への街宣行動など多彩な行動に起ちあがっています。

1・1「労働組合つぶしの大弾圧を許さない！ 大阪府警前元旦行動」に450名が結集！

労働組合つぶしの大弾圧を許さない！2025年元旦行動が取り組まれました。今回で7回目。大阪府警前に450名の労働者、市民が集まった。関西合同労組も7名が参加し決意を新たにしました。

「弾圧を終わらせる」決意の発言

はじめに反弹圧実行委員会の小林勝彦代表は、「2018年の弾圧開始から7年、民主主義はどこへ行ったのかと感じる。くじけず未来に向かってがんばっていこう。今日を新たなスタートとしてこの弾圧を終わらせたい。」とあいさつ。

関生支部・湯川裕司委員長は、「今年は重大な判決が続く。私は644日拘留された。裁判は、検察・警察のストーリーで事実とは関係なくつくられている。関生支部は『反社』のレッテルを貼られているが、弾圧の目的は労働組合運動をさせないことだ。とりわけでも一人でも入れる産業別組合への弾圧だ。労働組合の正当性を広めていこう」と決意を明らかにした。その後、京滋実行委員会、関生支部弾圧を許さない東海の会、労働組合つぶしを許さない兵庫の会からの共に闘うアピールがあった。

国会議員からの発言

シュプレヒコールをはさんで、れいわ新



選組共同代表の大石あき子議員から「国会で映画『ここから』を上映し、主人公の



組合を裏切らないという姿に感動した。議員という立場で闘っていく」。続いて、社民党副党首の大椿ゆう子参議院議員が「関生支部弾圧に加担してきた杉田、足立元議員は衆議院選挙に立候補すらできなかった。謝罪すべきだ。私や大石議員のように憲法28条を守れという議員が国会にいないてはならない。私の議席は労働組合、みなさんの議席だ」と述べた。今年7月参議院選挙があり、大椿ゆう子議員の再選がかかっている。私たち関西合同労組も応援しよう。

昨年広島弾圧で289日の拘留を打ち破って保釈された高槻医療福祉労組の富山さんの発言、「法円坂55」の詩と演奏、ケアワーカーズユニオン山紀会、老朽原発を許さない若狭の会の連帯のあいさつ、最後に豊中市議・北大阪合同労組委員長の木村真さんが「ダイハツ、関電にも労働組合があるが機能していない。闘う労働組合が必要とされている」とまとめ元旦行動しめくくった。

公判闘争に結集しよう！

2月26日には京都3事件の京都地裁判決がでる。湯川委員長に懲役10年という、異常な求刑がされている。必ずや無罪判決を勝ちとろう。そして、昨年大津地裁で7名に無罪判決が出たが2名には有罪判決がくだされた。その2名の控訴審が大阪高裁で3月4日から始まる。また、大阪高裁無罪判決を最高裁が差し戻した加茂生コン事件の判決が4月17日にある。重要な裁判をめぐる闘いに全力でかけつけよう。

2025・2・7～9関西生コン弾圧沖縄シンポジウム報告

2月7日（金）～9日（日）にかけて、沖縄で関西生コン弾圧のシンポジウムが開かれ、関西合同労組として参加してきました。

シンポジウム以外にも、嘉手納基地や辺野古の埋め立て現場も見学し、意義ある3日間となりました。

2月7日(金) 神戸空港を出発し、那覇空港で伊丹・羽田便で来た人たちと合流しました。

ホテルにチェックインしてから那覇のシンポジウムの会場、国際通りに面した「那覇テンプス・ホール」に向かいました。会場には全港湾沖縄の組合員など60人が集まりました。（右上の写真）

司会を全日建本部書記次長の玖島さん。最初に湯川・関西生コン支部委員長の挨拶。沖縄の基地問題をはじめとする闘いに敬意を表するとしてうえて、「反社勢力」として2018年から弾圧されている。産別労働運動をやっていくと必ず弾圧される。戦争の問題など我々を取り巻く環境は厳しいが、我々が望む戦争のない社会を目指して、この弾圧をのりこえたい。

パネルディスカッションに移り司会を松村・関西生コン支部執行委員が務めました。パネラーとして吉田喜美夫・立命館大学名誉教授、ジャーナリストの竹信三恵子さん、豊中市議会議員で北大阪合同の木村真さん、全港湾大阪支部委員長の小林勝彦さん、弁護士位田浩さん、久堀文さんの6人。

最初に位田弁護士と久堀弁護士から、関西生コン弾圧の詳しい説明がなされました。この弾圧の異常さは、検察官が取り調べで組合員の脱退を強要したこと、それと裁判所も保釈条件に組合事務所への立ち入りと「関係者」（どのような人でも関係者となる）との接触を禁じたことに現れている。組合活動を完全にできなくするために警察・検察・司法が一体となって襲い掛かったこと。産別労組としての関西生コン支部が、一面闘争・一面共闘として協同組合組織化のた



めにアウト社（協同組合に加入していない会社）の加入を働きかけて、2015年に大阪広域協組の大同団結が成し遂げられた。

どの事件も、経営が関西生コン支部を「畏怖」して、「脅迫」や「強要」などを受けたことにされている。畏怖されない労働組合など、本当の労働組合ではない。労働組合は、一人一人では弱い立場の労働者が、時には大きな声をあげて、あるいは生産を実力で止める行為を行って、会社を畏怖させ、要求を通すものだから。

吉田さんは、労働法学者の立場から発言しました。

労働法学会の有志78名で関西生コン弾圧にたいする抗議声明を出した。市民同士の刑事事件ではなくして、労働組合としての「事件」であると。ところが、この事件の裁判のなかである裁判官が「私は労働法は不勉強でして」とか、検察官が組合員のことを「組員」と呼んだ。また裁判官が「同情スト」とは何かと聞いてくる。とんでもないことが起きている。

竹信さんは、警察や検察が言葉を読み替えていることとSNSなどの情報戦に負けていることなどを問題としました。

団交を「強要」、ストライキを「威力業務妨害」、コンプライアンス活動を「脅迫」。言葉のトリックで暴力団と同じとして組織的犯罪対策課が出てきている。ユーチューブなどで関生は怖い団体という映像が繰り返

返し流されている。

木村さんは個人加盟の組合としての立場から、会社は言うことを聞かない、だから畏怖させるのだと話しました。

小林さんは、関西生コンは怖い組合で「反社」というけれど団交の相手・経営が反社そのものなんだ、死者が出たこともある。そんなものを相手にしているんだということをわかってもらいたい、と話しました。

パネラーのまとめとして、竹信さんはユーチューブなどの情報戦に勝つこと。MBSのドキュメンタリーなどが出るようになっていく。自分たちの側からストーリーを打ち出していこう。小林さんは関西生コンの真の姿を広めていく事。吉田さんは、労働組合が罪でなくなって250年、基本的人権にたいする攻撃だという本質をつかむことと。

2時間半に及ぶシンポジウムは熱気の内にて過ぎて、終了ということになりました。

2月8日(土) 2日目は、まず嘉手納基地(下の写真)の見学。前に沖縄



に来たときは「安保の見える」ビル屋上に行った記憶がありましたが、今は基地の真横に道の駅が出来て展望台もあります。この日は土曜日で飛行機はあまり飛んでいませんでしたが、近くの食堂で食事していた時に爆音がして、飛行機が飛び立つところでした。道の駅の3階には嘉手納の米軍上陸時の写真や基地被害に苦しむ住民のビデオなどが上映されていました。

次に辺野古へと移動しました。この日はキャンプシュワブでは座り込みは行われていませんでした。大浦湾の埋め立て工事が行われているところを対岸から見ました。

大きな鉄塔が建てられており工事は進んでいるように感じました。

(右の写真)



名護のホテル

にチェックインして、この日の会場である城(ぐすく)区民館にバスで移動、この日も約60人が参加しました。(下の写真)

一日目とほぼ同じ内容でしたが、辺野古の弾圧の弁護人をしている三宅弁護士から話がありました。国策を沖縄県警を使って行う。戦前の官僚が沖縄の知事として赴任してきたが、復帰したとたんに官僚が支配する構造は変わらない。警備員が死亡した事故は、反対する市民とトラックの間に暗黙の了解があったのに、一方的に変更して警備員が死に女性が大けがをした。そのトラックの運転手の取調べすらしていない。これからも厳しい闘いが続くが闘っていく。

2月9日(日) 最終日は名護から那覇まで移動しました。途中、プロ野球の日本ハムファイターズのキャンプ地を通り、ちょうど選手が野球場に入っていくところを見ました。那覇空港に着いて神戸空港へ向かいました。夕焼けに染まる明石大橋も見えました。あっという間の3日間でしたが、あらためて関西生コン弾圧の攻撃の本質について、認識できたと実感しています。

2月26日の湯川委員長に対する10年求刑の判決公判はじめ、全力で取り組んで必ず関西生コン弾圧を打ち破りましょう。



東京都労委で被曝労働者に画期的命令、 元請企業に団交応諾義務を認定

福島第一原発(以下フクイチ)事故の収束・廃炉作業などの被ばく労働が原因で、急性骨髄性白血病で闘病中のAさんは、労働基準監督署の労災認定を勝ち取り、東電相手に東京地裁で損害賠償請求訴訟を闘っている。

他方で、原発関連労働者ユニオンに加入して元請会社の竹中工務店に団体交渉を求めたが、「雇用主でない」等の理由で交渉を拒否したため、東京都労働委員会に救済申立をおこない、2025年1月29日、ついに都労委が竹中工務店の団交拒否は不当労働行為に当たるとして救済命令を出した。

原発内の下請け労働者が加入する労働組合が、直接雇用主ではない元請企業との団体交渉権が認められた初めての画期的な勝利命令だという。命令文には「就労時における被ばく労働管理などの作業環境に係る事項について、誠実に(団体交渉に)応じなければならない」としている。

損賠訴訟では、東電は労災認定された東電社員には「上積み補償」を行っているに

もかわらず、Aさんに対しては原発作業と白血病との因果関係を認めていないという。ゴルフ場が東電に対し放射性物質の除去を求めて仮処分申請をした裁判で、東電が「(放射性物質は)無主物(持ち主がいるわけではない)」と主張した悪夢を思い出す。

フクイチでは一日あたり5000人が働いており、元請10数社が仕事を請け負い、その下に下請や孫請会社がつらなる。事故後14年間で労災認定が降りた人はたったの14人(24年4月現在)しかない。

「難しいと思っていたが、いい命令が出たので感謝している。今後もつづく廃炉作業のなかで被ばくが原因で、自分のように病気になる人が出たときに、話し合いのハードルが下げられればいいと思う」と語るAさん。あらためて、原発労働者の健康と命を犠牲にする原発収束作業の恐ろしく困難な実態に、フクイチ事故を1mmも反省しない政府・東電・原発マフィアへの怒り・憎しみがおさまらない。同時に、Aさんや原発関連労働者ユニオンの地を這うような取り組みに心からの敬意・声援を送りたい。

(原発関連労働者ユニオン声明等から)

速報 湯川委員長に無罪！

2月26日午前10時すぎ、全国から結集した労働組合員、支援者に無罪の報告がなされると歓声が上がり、全員でこの大勝利を確認しました。

連帯労組関西生コン支部を先頭とした労働組合、各地の支援する会の団結が、懲役10年という重罪攻撃を打ち破ったのです。司法は生きていました。

この大勝利を突破口にこの大弾圧の被告とされた仲間たち全員の無罪を勝ち取るために、さらに団結を固めて闘いに立ち上がりましょう！(詳報・次号)



コラム

〈め（眼）メ（芽）〉 ②③

「ビビンバ」の思い出

■好きな食事（料理）のひとつにビビンバがある。生まれは岡山の北の寒い農村・牛市場も開く宿場街、鉄道はある一朝鮮漬けは母が自宅でもつくり、ホルモン焼きなどは近くの店でやっていた。それは家で食べるいつもの煮物干し魚などやたくわん・味噌汁ご飯とは違って美味しかった思いがある。朝鮮の人達も多く一緒に祭や運動会をやって差別はあった。しかし子どもたちは楽しかった。地元で酒造会社もあったが庶民の酒どぶろくも平然と売られ＝吞まれていた。その中でも朝鮮の友人の店で食べたビビンバは忘れられない。コチュジャンとごま油と思うがなんともいえない辛い甘みは始めてだった。それは格別だったことを覚えている。味わったことのない独特の味だった。

■父が少年時代から満州（馬賊など）にわたり、満州国官僚、軍隊、シベリア抑留を経験していたので中国食（餃子など）も自宅で作ったり、黒パンロシヤ料理のことは聞いてこうした料理には違和感はなかったが美味しかった。その後高校時代の津山（岡山県北部）でも時々食べたが友人の店の味ほどではなかった。この美味しさは何かというおもいは残った。その後就職し、活動を開始した神戸・兵庫の街でたくさんの国のご飯を食べたがああのビビンバが一番。二番がいまは無い元町ロシヤ料理店のボルシチ（安かった）。

■ビビンバは、韓国語・朝鮮語で混ぜご飯を意味する。丼にご飯を入れ、その上にナムルや肉、ぜんまい、なます、卵などの具を載せた料理で、コチュジャンやごま油などの調味料をかけ、匙でかき混ぜて食べる、1998年に大韓航空

が機内食として提供したビビンバが『世界最高の機内食賞』を受賞したことをきっかけに世界に広く知れ渡ったといわれているらしい。

■「ピビム」（비빔）が「混ぜ」（「비비다」（混ぜる）の名詞形）、「パッ」（밥）が「飯」の意味である。日本語においては「ビビンバ」という表記が通例とされるが、実際には[pibimpap]「ピビンパッ」のように発音される。起源はいろいろらしいが朝鮮では全国各地で古くから食べられたものらしい。韓国観光公社では「大晦日に残った食べ物は新年まで持ち越さない風習があり、残った食べ物をご飯とまぜて食べたのがビビンバの始まり」と説明する。

■〈混ぜご飯〉の良さを感じる。炊き込みご飯も庶民の手軽な食事で栄養も豊か。ビビンバはコチュジャン（唐辛子味噌）と野菜とごはんを混ぜるといいところ、素材を生かし豊かさを生んでいるように思う。現代風にいえば〈多様性〉ということでもあるだろう。各地各国庶民の食事は地元性にたってそうなのかもしれない。

■関西合同労組はいまでも1995年結成以来〈混ぜご飯〉文化式でここまでやってきたように思う。今後この〈混ぜご飯〉の野菜を新鮮に種類を増やし、唐辛子味噌をうまくしてもっと魅力ある労組にしていこう。

■あのビビンバの美味しさを知らせてくれた田舎の小中学校時代の朝鮮の友人仲間・家族は北（朝鮮民主主義人民共和国）に帰ったままで、田舎に帰ってもその消息を聞くことも会うこともない。それは哀しい。

宮崎庸人（執行委）



当面のスケジュール

- ・ 3月1日（土）
日本の敗戦/朝鮮解放・分断80年 朝鮮半島と日本、アジアの平和を実現するための3・1学習会
18時30分 エルおおさか本館604
- ・ 3月8日（土）
2025兵庫たたかう仲間の集会
13時30分 神戸中央文化センター・1階多目的ホール
- ・ 3月9日（日）
さよなら原発関西アクション
14時 中之島公園女性像前
- ・ 3月9日（日）
原発事故から14年 原発事故はいのち・生活・生業を奪う～苦難の中を生き抜く被災者ととともに～
14時 神戸市立婦人会館「さくら」
- ・ 3月15日（土）
非核神戸方式を今こそ全国へ
13時40分 神戸市教育会館大ホール
- ・ 3月19日（水）
MAYDAYあまがさき2025実行委員会
18時30分 リベル会議室
- ・ 3月20日（木・祝）
県民のための兵庫県政を取り戻そう！
県民集会
14時 メリケンパーク（予定）
- ・ 3月22日（土）～23日（日）
若狭一斉チラシ配り（拡大アマーバデモ）
23日14時から美浜町内デモ
関西電力原子力事業本部抗議行動
- ・ 3月24日（月）
第8回本部執行委員会
18時 西宮市立勤労会館

未来を築く 働き方と賃上げを！
2025兵庫たたかう仲間の集会
 パワハラ ただ働きの一掃を！
 労基法改悪を止めよう！
 労働組合をつくり直そう！

3月8日(土)13:30～
中央区文化センター1F 多目的ホール

◆ 闘いの報告と記念講演(終了後デモ行進)
 ◆ 講師 吉田 美喜夫 (立命館大学名誉教授)
 「労働組合の過去・現在・そして未来は」
 1949年11月5日生まれ、立命館大学名誉教授。
 著書に『労働法と労働法』(共著、法律文化社)、
 『人の国際移動と現代日本の法』(共著、日本評論社)など多数。

兵庫たたかう仲間の集会実行委員会
 神戸市中央区古渡通 1-2-50AIEビル 3F ひょうごユニオン内
 TEL078-392-2116/FAX078-392-2124
 E-mail:hyogounion@rouge.plala.or.jp

編集後記

▼前回(138号)の「編集後記」からの続報です。昨年末の12月23日大腸内視鏡検査で3個のポリープが発見され、切除を受けました。後日の検査結果で幸いにも良性で事なきを得ました。ご心配してくださった皆さんあ

りがとうございました。

▼25春闘が始まりました。長引く物価高騰これに見合った大幅賃上げを勝ち取らねばなりません。労働運動・労働組合の真価が問われています。全力で闘いたいと思います。

▼これを書いているのは2月16日。天気予報によると週明けの18日から寒波が来ます。防寒対策を万全に冬を越しましょう。(S)